

公益社団法人日本動物学会 2024 年度第四回理事会 議事録

1. 開催された日時：2024 年 12 月 13 日（金）10:00-12:00

2. 開催された場所：

<https://us06web.zoom.us/j/87645474272?pwd=8WY0WGadmlK1HIpVd4vcukMny5I1nN.1>

（Zoom によるオンラインミーティング）

ミーティング ID: 876 4547 4272

パスコード: 250251

3. 理事総数及び定足数

総数 21 名 定足数 11 名

4. 出席役員

（出席理事）小川宏人、熊野 岳、渡邊明彦、深津武馬、田中幹子、伊藤悦朗、三浦 徹、
和田 洋、吉田 学、阿部秀樹、東城幸治、小柳光正、志賀向子、植木龍也、
浮穴和義、岡田二郎、山脇兆史、小柴和子、佐倉 緑、吉田 薫

（欠席理事）勝 義直

（出席監事）田島節子

（欠席監事）大島範子

理事出席者 20 名、監事 1 名の出席を得て、理事会は成立となった。議長は、志賀向子理事。
議事録署名人は、定款 35 条 2 項により、会長、田島節子監事。

5. 報告事項

議事録の回覧

2024 年度第 1 回総会の議事録（資料 1）、第 3 回理事会の議事録（資料 2）、2024 年 10 月 29 日通信理事会の議事録および理事会資料（資料 3）、2024 年 12 月 2 日通信理事会の議事録および理事会資料（資料 4）が回覧された。

会長報告（志賀会長）

前寺北会長から引継を受け、学術著作権協会から著作権管理の委託について、AI 資料も含めて委託する。また、5 年間の非常勤雇用者の雇い止め問題について、生物科学連合と歩調を合わせて意見する。また前理事会からの引継ぎ事項として、代議員制の導入を今期議論したい。

理事活動報告

第 96 回大会（2025 年）中部大会準備状況報告（阿部理事）

阿部理事より、大会ポスターが完成したこと、会場（ポートメッセなごや）を運営している公益財団法人名古屋コンベンションビューローに対し名古屋市の MICE 開催補助金の申請準備を行っていること、企業展示についての趣意書を作成中であること、大会HPは年内公開を予定していること、シンポジウム募集は 1 月下旬となる予定であること、等が報告された。志賀会長から、子どもを連れてのポスター発表の検討について質問がなされ、阿部理事より現在会場系の先生に検討してもらっている旨の回答があった。

第 97 回大会（2026 年）北海道大会準備状況報告（小川理事）

大会長の勝理事に代わり、小川理事より準備委員会の構成、日程が 2026 年 9 月 3～5 日（2 日に理事会及び各種委員会）となったこと、会場は北海道大学高等教育推進機構、懇親会場として隣接する北部食堂、一般公開シンポジウム会場として学術交流会館を予定していること、札幌市のコンベンション誘致促進助成金が仮決定されたこと、公開講演会講師選出を進めていること、等が報告された。

第 98 回大会（2027 年）関東大会準備状況報告（田中理事）

田中理事より明治大学を会場候補として準備を進めていること、日程は未定であることが報告された。

志賀会長から、大会の会計執行は準備委員会に任せてはいるが、本部としてサポートもできるので相談してほしい旨の補足があった。

寄附委員会報告（山協理事）

山協理事より、現状の税額控除の要件についての再確認と、一人あたり寄附額 3,000 円、寄附者 100 人以上を目指してきたことについて説明があり、続いて 2023 年度の寄附状況が報告された。中部支部を中心に 141 件 756,039 円の寄附があり、判定基準要件を十分クリアしている。また、中部支部の寄附事業の試みとしてクラウドファンディング事業プレバート・プロジェクトが紹介され、支援者 13 名から支援総額 74,057 円があったことが報告された。高校生発表の旅費支援のための寄附事業なども対象として、他の支部でも広げてほしいと依頼があった。中部支部の阿部理事から、「毎年やると段々減ってくるので継続には何か工夫が必要だろう」、「小中高生の夏休み自由研究に役立つことを目指して 7～8 月にしていたが、実際に寄附しているのは成人が多いので募集時期の変更も検討している。」、「来年の名古屋大会での一般の方からの寄附を募りたい。」との補足説明があった。田中理事から、「プレバート作成の費用はどうしているのか？科研費は使えないので注意が

必要では？」という質問があった。阿部委員からは「中部支部では1回目以外は支部活動費から支出している。」と回答があった。また、学会員の研究活動を支援するクラウドファンディング事業を公益事業として実施してよいのかについて、理事からの意見を求めた。具体的な支援対象研究を決めて学会が募集する形式と、学会の助成金として特定の研究を指定せずに募集する形式があること、高校生の研究支援を対象にしては？等の意見があった。動物学会の寄附に関する規定では、寄附の目的は①動物学の新興、②男女共同参画、③動物学会が必要とする事業としているが、寄附者は目的を指定することもできる（指定しない場合は、自動的に③となる）。さらに志賀会長から、これまでの寄附の形態がよいのか、クラウドファンディングがよいのかについて意見を求めたところ、東城理事からはスタイルは問わないのでは？との意見があり、最終的にいろいろな形で、複数の事業を対象として寄附を求めていくことを了承した。

IT 委員会報告（吉田理事）

国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（ウェブサイトを無料で後世に伝える事業）への協力について説明があった。例として日本農芸化学会の過去の大会HPが保存されていることが紹介された。動物学会では支部サイトの閉鎖とその内容を国会図書館インターネット資料保存事業へ移すこと通信理事会で承認され、動物学会のHPも保存対象として提供する作業がはじまっている。

支部サイトを学会HPと同様な仕様（WordPress）で1月くらいをめどに（株）ダイナックスが作業を完了させる（見積もり75万円）。今後の支部活動のニュースは、支部の広報担当が直接本部サイトの「お知らせ」に掲載できるようにしたい。最終的には今後支部ページごとに「ニュース」が一覧されるようにしたい。山脇理事から「学会HP」からここへのリンクを作成して、過去の大会HPへも飛べるようにしておく方がよいのでは、という意見があった。

ZDW 委員会担当理事（東城理事）から、当該委員会の立ち上げ当初からオンライン化に尽力してくれた嶋田大輔会員が11月に急逝されたこと、今後の活動は田中正敦会員が中心となって継続することが報告された。

その他、口頭での理事報告を希望する理事がいなかったため、各自次項理事活動報告において報告書の閲覧を行った。

理事活動報告（2024年7月～12月）の確認（DropBoxの資料確認）

理事活動報告について、以下の理事については、業務執行報告として別紙の理事報告書の提出を受けており、その内容で理事の理事会における業務執行報告とする旨、出席理事全員が了承した。

勝義直、小川宏人、熊野岳、渡邊明彦、深津武馬、田中幹子、伊藤悦朗、和田洋、吉田学、

三浦徹、阿部秀樹、東城幸治、小柳光正、志賀向子、植木龍也、浮穴和義、岡田二郎、山脇兆史、小柴和子、佐倉緑、吉田薫

6. 審議事項

第一号議案 2024 年度学会賞等選考委員会委員選出（吉田庶務）

吉田庶務より選考課程と被選出委員対象者の説明があった後、選考委員の選出結果が報告され、承認された。

第二号議案 ZL の著作権について（志賀会長）

志賀会長より UniBioPress の永井氏から現在 CC-BY に NC-ND を付け加えることについて 9 月 11 日の理事会で継続審議について説明があった。植木理事より著者は再利用について許諾が必要なのかについて質問があり、深津理事より他のジャーナルと同様、著者が原図を改変して再利用するのは問題ないだろうと回答。審議の上、NC-ND を付け加えることが承認された。

第三号議案 理事報酬、監事報酬について（志賀会長）

学会の役員報酬及び退職金規程の（報酬・退職金について）の第 2 項では、理事報酬は年額 2 万円以内の範囲で決められるが、具体的な報酬額は決まっていなかった。役員会の方針としては理事報酬、幹事報酬は 0 円としてはどうか、という意見がある旨が説明された。和田理事から、動物学会活動に関する執筆や講演等に対する謝金は可能にすべきでは、という意見があり、「2024-2025 年度における理事の職務に対する報酬は 0 円とする。それ以外の専門的業務に従事した場合の報酬は支給できるものとする。」ことが承認された。

その他

次回（2024 年度第 5 回理事会）は、2025 年 6 月の第 1 週に開催する予定である。日程調整は 5 月上旬に行う。

監事からの御意見（田島監事）

寄附を集める目的が、税金に対する対策であれば、達成目的が明確なクラウドファンディングはそぐわないのでは？定常的な寄附を安定化させることを目指したほうがよい。報酬に関する規定について、規定はそもそも理事業務に関する報酬についてのものであって、一般的な講演謝金等が支払えないとは読み取れないのではないか、というご意見を頂いた。

（志賀会長から、この報酬規定は学会からのすべての報酬に相当すると解釈して規定改定も行ってきたので、今回決議に加えた旨が回答された。）

2024 年 12 月 13 日

上記の内容で相違ないことを証するため、ここに記名押印をする。

会長 志賀 向子

監事 田島 節子

公益社団法人

日本動物学会

第96回名古屋大会



イラスト・いずもり・よう

2025年9月4日(木)~9月6日(土)

会場：ポートメッセなごや

市民公開イベント 9月6日(土)

高校生ポスター発表・動物学ひろば・歴史資料展示ほか

↓ SNS ハッシュタグ
#zs2025

← 動物名は大会サイトに掲載



<https://www.zoology.or.jp/annual-meeting/2/>

税額控除の条件

2. 法人に求められる要件について

(1) 総論

実績判定期間において、以下の2つの要件のうち、いずれかを満たす必要があります。

＜要件1＞3,000円以上の寄附金を支出した者が、平均して年に100人以上いること。

ただし、実績判定期間内に、公益目的事業費用の額の合計額が1億円未満の事業年度がある場合、当該事業年度の判定基準寄附者数は（ア）のとおり計算し、かつ（イ）の要件を満たすこと。

$$\text{(ア) 判定基準寄附者数} = \frac{\text{実際の寄附者数} \times 1 \text{ 億}}{\text{公益目的事業費用の額の合計額}} \\ \text{(1,000万円未満の場合には1,000万円)}$$

（イ）寄附金額が年平均30万円以上

（租税特別措置法施行令第26条の28の2第1項第1号イ（2）の要件）

＜要件2＞経常収入金額に占める寄附金等収入の割合が、1/5以上であること。



○ ＜要件1＞・＜要件2＞は、両方満たす必要はなく、どちらかを満たしていれば証明を受けられます。

税額控除の条件

以下の点に注意してください。

①寄附者本人と生計を一にする者を含めて、一人として判定します。

ex1.ある事業年度において、2,000 円の寄附金を支出した者と生計を一にする配偶者・親子から 1,000 円の寄附があった場合には、これらを合算し「1 人から 3,000 円」の寄附としてカウントします。

ex2.ある事業年度において、5,000 円の寄附金を支出した者と生計を一にする配偶者・親子から 3,000 円の寄附があった場合には、いずれか一方の者のみを寄附者としてカウントできます。（もう一方の者は 100 人にカウントすることはできません。）



②申請する法人の役員である者（※）は、寄附者としてカウントすることはできません。（※法人の役員とは、理事、監事及び清算人等を言います。公益財団法人の評議員は、寄附者としてカウントできます。）

③公益財団法人の賛助会費、公益社団法人の法人法上の社員以外の者から支出された会費（特別会費）等は、当該会費に対価性や支出義務がない場合には寄附金として認められると考えます。（現行制度における所得税法 § 78②Ⅲの所得控除、法人税法 § 37④の寄附金の損金算入の対象となる寄附金の考え方と同様です。）

動物学会への寄付の現状（2023年度）

141件 総額756,039円
(うち116件は5,000円以下)

寄付者の内訳
学会員122（理事3）、一般19

公益目的事業費用の額の合計額 約3500万円

判定基準寄付件数 $= (141 - 3) \times 1 \text{ 億} / 3500 \text{ 万}$
 $\doteq 394.3$

中部支部の試み

動物学の学びを次世代へ!プレパレート・プロジェクト2024

寄付先

公益社団法人 日本動物学会

日本動物学会中部支部 クラウドファンディング事業 2024



日本動物学会中部支部

支援総額

74,057円

/ 60,000円

100%

123%

支援総額

74,057円

支援者数

13人

残り

終了

開始日

2024年7月5日

終了日

2024年8月25日

キャンペーンは終了しました

今後の寄付活動

中部支部によるクラウドファンディング事業
プレパレート・プロジェクト 2025を実施予定

学会員の研究活動を支援する
クラウドファンディング事業を実施する？

収録対象

公的機関のウェブサイト

国立国会図書館法に基づき、網羅的に収集しています。

- 国の機関
- 地方自治体
- 独立行政法人
- 国公立大学
- …等

民間のウェブサイト

ウェブサイトの発信者の許諾を得て収集しています。

- 政党
- 公益法人
- 学協会
- 私立大学
- 業界団体
- イベント
- …等

収録データ

タイトル数	14,109件
累積保存件数	238,065件
データ量	2,761TB
ファイル数	126億6,985万点

令和5(2023)年3月31日現在

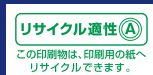
WARPの歩み

平成14(2002)年度	実験事業として開始
平成18(2006)年度	本格事業化
平成22(2010)年度	改正国立国会図書館法(平成21年度公布)に基づき公的機関が発信するウェブサイトの網羅的な収集を開始

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

関西館 電子図書館課

E-mail warp@ndl.go.jp

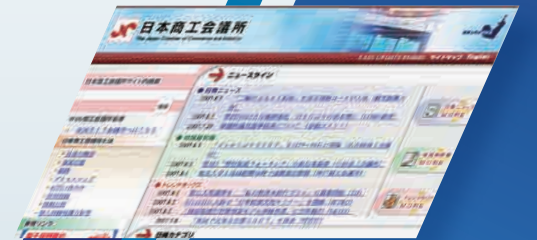


令和6(2024)年3月 発行

あの頃のホームページに
ワープしよう。



国立国会図書館
インターネット資料収集保存事業



<https://warp.da.ndl.go.jp/>

ウェブサイトを後世に伝えます！

インターネット上の情報は更新や削除がされやすく、ウェブサイト自体が消滅してしまうこともあります。消えてしまいやすいインターネット上の情報を将来にわたって利用できるよう、国立国会図書館はウェブサイトを定期的に収集・保存しています。



新宮市



2004年12月12日



2012年6月8日



2019年3月4日

日本商工会議所



2004年4月6日



2007年8月4日



2018年7月20日

佐渡国際
トライアスロン
大会



2004年9月19日



2013年9月15日



2018年9月15日

WARPで探しませんか？

消えてしまった
あのページ

以前インターネットで見た情報をあらためて確認しようとしたらページが消えていた…。そのページ、WARPで保存しているかもしれません。ウェブサイトのURLやタイトル・公開者による検索はもちろん、サイト内の本文検索も可能。「国の機関」「大学」「イベント」等、コレクションごとの検索も用意しています。

インターネットで
いつでもどこでも

保存しているウェブサイトは、国立国会図書館内でご覧いただけます。さらに、その8割以上を発信者の許諾を得てインターネット上に公開しており、自宅や会社などから、いつでもWARPが保存している豊富な資料を利用することができます。

WARPに残しませんか？

「いま」の確かな
記録として

情報を伝える重要なメディアであるウェブサイト。しかし、閉鎖してしまえば、組織やイベントの記録や記憶が消えてしまうことにもなりかねません。WARPはウェブサイトの「保管庫」です。オリジナルサイトが消えても、WARPは永くデータを保存し、貴重な「いま」を未来に伝えます。

ウェブサイトの
運用コスト削減に

「数年前のイベントや会議のページ、残しておきたいけど、運用コストがかかるし…。」その悩み、WARPを使って解決しませんか？WARPに保存されているページにリンクを張り利用者を誘導すれば、古いページを自機関のウェブサイトから消してしまっても、引き続き情報を届けることができます。

2024 年度第 4 回理事会 理事職務報告 提出者 21 名（敬称略）

氏名	職務
勝 義直	北海道支部長
小川 宏人	図書・出版
熊野 岳	東北支部長
渡邊 明彦	男女共同参画
深津 武馬	副会長
田中 幹子	関東支部長
伊藤 悦朗	賞等
和田 洋	教育
吉田 学	IT
三浦 徹	国際交流
阿部 秀樹	中部支部長
東城 幸治	ZDW
小柳 光正	近畿支部長
志賀 向子	会長
植木 龍也	中国四国支部長
浮穴 和義	広報
岡田 二郎	九州支部長／大会引き継ぎ
山脇 兆史	寄付
小柴和子	将来計画
佐倉緑	会計
吉田薫	庶務

日本動物学会北海道支部 活動報告 2024 年 7 月～12 月

報告：勝 義直（北海道支部・支部長）

水島 秀成（北海道支部・庶務幹事）

福富 又三郎（北海道支部・会計幹事）

2024 年 11 月 24 日作成

1. 次回支部大会の開催について

第 69 回支部大会開催について支部幹事の間で検討し、以下は、現時点での準備状況である。

第 69 回日本動物学会北海道支部大会

日時：2025 年 3 月 22 日（土）

場所：北海道大学水産学部水産科学未来人材育成館にて対面式で行う予定

内容：一般発表、特別講演、高校生発表、総会を予定

2. 支部役員会の開催について

第 1 回北海道支部役員会（メール会議）2024 年 11 月 11 日（月）

2024-2025 年度の支部委員について選挙結果をもとにした委員の紹介を行い、今期の体制を説明した。

3. 支部講演会の開催について

第 600 回支部講演会

・日時：2024年7月23日（火）13:00～14:30

・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室

・演者：石郷岡 潤 先生（Max Planck Research Group Behavioural Genomics,

・ Max Planck Institute for Evolutionary Biology）

・演題：A bird's-eye view on evolution of seasonal migration

第 601 回支部講演会

・日時：2024年9月19日（木）16:30～18:00

・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室

・演者：沼田英治 博士（京都大学学術研究展開センター

・演題：昆虫の光周性と概日時計

第 602 回支部講演会

- ・ 日時：2024年11月18日（火） 17:00～18:30
- ・ 場所：旭川医科大学 第4講義室
- ・ 演者：陽川憲 博士（北見工業大学）
- ・ 演題：植物を用いた麻酔研究からわかることー麻酔のふしぎ

以上

出版・図書委員会活動報告（2024 年 7 月-12 月）

- 退職等のため中四国支部および九州支部代表の委員 2 名を交替した。
- また、これまで継続してきた、Springer Series “Diversity and Commonality in Animals” の継続刊行企画 (Vol 4. Animal Behaviors (仮題) , Vol 5. Endocrine Systems in Animals (仮題)) については、企画立案から 10 年以上が経過しているため再考し、新たな企画を立てるほか、学会員に企画を募集する計画である。

東北支部活動報告（2024 年 7 月～12 月）

(1) 東北支部役員会

開催日：7 月 27 日（土） 山形大学工学部百周年記念会館 1F（対面）

<議題>

- ・ 理事会報告
- ・ 令和 5 年度決算報告
- ・ 令和 6 年度予算計画
- ・ 次期支部大会開催地について
- ・ 支部役員（岩手地区・秋田地区支部委員）の委嘱について
- ・ これまでのフォトコンテストに代わるイベント開催について

(2) 2024 年度東北支部大会

開催日：7 月 27 日（土）～7 月 28 日（日） 山形大学工学部（対面）

演題数：口頭 16 題

参加者数：52 名（うち、動物学会会員 17 名）

(3) 高校生による科学研究発表

開催日：7 月 27 日（土） 山形大学工学部（対面）

演題数：ポスター 24 題

参加校数：11 校

参加者数：123 名（うち、教諭 11 名）

*ただし、大雨の影響で 2 校が当日欠席：23 名（うち、教諭 2 名）

(4) 令和 5 年度東北支部総会

開催日：7 月 28 日（日） 山形大学工学部（対面）

<議題>

- ・ 理事会報告
- ・ 会計報告
- ・ 次期支部大会開催地について

(5) 親子で楽しむ動物学 24 ～いろいろな動物をみてみよう～

開催日：7 月 28 日（日） 山形大学工学部（対面）

参加者数：15 名

以上

男女共同参画理事及び委員会活動報告（2024 年 7-12 月）

1. 第 95 回長崎大会にて、キャリアパス小委員会と合同企画として第 24 回男女共同参画懇談会：「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究を無理なく続けるためのコツ～」を実施し、ランチョンセミナーとグループディスカッションを行った。グループディスカッションでは 5 グループにわかれ、下記の 4 つのテーマについて議論した。それぞれのグループには男女共同参画委員会委員がファシリテーターとして参加し、活発な議論が行われた。参加者は 52 名、シニア、中堅、若手研究者から大学院生と、幅広い世代の参加があった。
 - ・キャリアパス（キャリアパス小委員会）
【アカデミアと企業の違い，大学のキャリア支援，コネクションづくり，資格】
 - ・勤務地とキャリアパス
 - ・働き方と日々の生活
【キーワード：情報収集，相互理解，各種補助制度の利用，本人の希望の明確化】
 - ・研究と日々の生活
【キーワード：授業コマ数，飼育，裁量労働制，ストレスチェック】
2. 第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（2024 年 10 月 12 日（土）中央大学茗荷谷キャンパス&オンライン(Zoom webinar)開催）に参加し、活動報告のポスター発表を行うとともに、シンポジウム資料集に活動報告書を掲載した。
3. 男女共同参画学協会連絡会第 23 期総会、第 1 回運営委員会（2024 年 12 月 10 日（火）Web 会議）に参加予定である。

副会長報告(2024 年 7 月～12 月)

報告者 副会長 深津武馬

2024 年 12 月 9 日作成

(1)本部役員間のミーティングならびに事務局のオンライン打ち合わせおよび事務局での対面打ち合わせに参加し、解決すべき所掌事項に対して意見を出し課題解決に寄与した。

(2)財団からの選考委員候補者の推薦依頼に対し意見を出し、候補者を検討した。

(3)その他、会長、会計、庶務、ならびに各委員会の職務を補佐した。

以上

日本動物学会関東支部 2024 年度 7-12 月 活動報告

1) 支部主催公開講演会の実施

日時：2024 年 7 月 20 日（土）13:00-16:30

会場：東京大学本郷キャンパス 理学部 2 号館講堂

「動物のさまざまなコミュニケーション～細胞から個体レベルまで～」

新村毅先生（東京農工大学）

「鳥類の個体間・母子間コミュニケーション」

古藤日子先生（産業技術総合研究所）

「アリから学ぶ社会的なコミュニケーションと健康の関わり」

島田裕子先生（筑波大学）

「寄生蜂ニホンアソバラコマユバチの生存戦略の解明に向けたマルチオミクス解析」

日本動物学会関東支部企画委員 守野 孔明、馬谷 千恵、山元 孝佳、宮本 教生

2) 理事会出席

2024 年度 第 2 回 2024 年 9 月 11 日（水）16:00~18:15 長崎大学文教キャンパス

3) 支部委員会の開催

第 1 回 2024 年 12 月 2 日 10 月 3 日（木）17:00~18:00（オンライン）

賞等担当理事活動報告：2024 年 7 月から 12 月までの活動報告

1. 日本動物学会賞、日本動物学会奨励賞、日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞、日本動物学会動物科学振興賞、日本動物学会動物学教育賞を決定した。
2. Zoological Science Award を決定した。
3. 成茂動物科学振興賞を決定した。
4. 茗原真路子研究奨励助成を決定した。

以上。

教育委員会活動報告(2024 年 7 月～12 月)

報告者 教育担当理事 和田洋

2024 年 12 月 6 日

1. 日本動物学会第 95 回大会教育委員会

日時：2024 年 9 月 11 日(水) 13:30~15:30

場所：長崎大学 教養教育棟 4 階 I 会場 (A-41)

出席者：谷口俊介（担当理事）、鈴木信雄（中部支部 2022-2023 年度）、川野絵美（近畿支部 2022-2023 年度）、八木光晴（九州支部 2022-2023 年度）、和田洋（オブザーバー；2024-2025 年度 担当理事）

欠席者：小谷友也（北海道支部 2022-2023 年度）、黒谷玲子（東北支部 2022-2023 年度）、森下文浩（中国四国支部 2022-2023 年度）

出席委員の自己紹介を行った。

議題 1) として 2024 年度事業計画について担当理事より以下 2 点の説明を行った。

- ① 各支部の支部大会を中心に高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動を実施する。
- ② 本大会および支部大会での高校生研究発表における著作権侵害や剽窃などの懸念事項に対して、大会準備委員会の高校生発表担当者と密に連携をとり募集要項に注意事項を記載し喚起する。

今年度は①②共に、特に大きな問題となるような事例報告はなかった。一方で、大会準備委員と各支部の教育委員との間で、高校生発表に関してどの程度議論されているかは不透明であるため、少なくとも高校生発表に関して疑問点がある場合には教育委員会へ連絡をいれることを周知することを提起した。特に、遺伝子組み換え、動物実験、個人情報に関わるアンケート取りなどに関しては案内文も含め注意が必要である旨を説明した。

議題 2) 執行部より「小中高生の入会と発表に関する指針（案）」が出され、それを学会内での資料として理事会で承認する旨の相談があったため、特に、小中学生の発表を認めるかどうかに関して議論を行った。

委員からの意見として以下のようなコメントが出た。

- ・ 高校生のみに限定する方が良い
- ・ 今回の長崎大会では中学生のみの発表は認めなかった
- ・ 生物学オリンピックに中学生が代表として出たことがある
- ・ 過去の支部大会では中学生も発表した

これらの意見を総合し、小中学生の発表に関しては、「小中高生の入会と発表に関する

指針（案）」で問題ないこと、特に、【注3】にある、学会大会長または支部大会長の裁量により小学生・中学生に発表を認めることができる。の点も問題ないことを確認した。

議題3) その他

高校生発表の案内文を将来的に再考することが提案された。特に議題1)に関連して、動物実験とヒトを対象にしたもの（個人情報保護）に対し、学会としてある程度の基準を設ける必要性を今後の教育委員会で議論することになった。

2. 2024 年度 新規 教育委員の選出

委員長 和田洋 筑波大

小谷 友也 北海道大学

出口 竜作 宮城教育大学

谷口 俊介 筑波大学

鈴木 信雄 金沢大学

古屋 秀隆 大阪大学

森下 文浩 広島大学

嬉 正勝 佐賀大学

新規委員で、年次大会や支部大会での高校生発表などにおける遺伝子組換え実験や動物実験、ヒトを対象とした研究をどう扱っていくかの議論を続けていくことを通知し、各支部における現状の把握を進めるように依頼した。

2024 年 12 月 1 日

IT 担当理事 活動報告（2023 年 7 月～12 月）

担当理事 吉田 学

1. 第 95 回長崎大会の演題閲覧検索システム K-con navi の学会中の運用を監理した。
2. 長崎大会の際に IT 委員会を対面で実施し、活動方針を打合せた。(9/11)
3. 第 96 回名古屋大会実行委員会である阿部理事・中部支部長と、大会 Web サイト及び演題・参加登録サイトの運営に関する打ち合わせを行った。

第 96 回名古屋大会用の web サイトについて、名古屋大会実行委員会へ管理運用の引継ぎを行った。
4. 2021 年に動物学会に資料収集の許諾依頼があった国立国会図書館のインターネット資料収集保存事業について、動物学会の web サイト全体で参加することを決定し、学会事務局を通じて承諾書を提出し、国会図書館による収集作業が開始した。

12 月末頃に国会図書館にて、下記の URL でアーカイブ内容が公開される予定である。

<https://warp.da.ndl.go.jp/waid/33441>

5. 学会の web サイトの運営を委託している（株）ダイナックスより、サーバー老朽化のため現行支部サイトの運用を 2024 年 12 月末に停止したいとの通知があった。代替の支部サイトをどのように作成するか、ダイナックスと相談しながら検討を行い、本部サイトへ統合する形で改修を行うこととした。現在、改修作業をダイナックスに発注し、作業を進めている。

2023 年度 国際交流委員会活動報告

1. 国際交流委員会の開催

前年度の会員からの企画提案はゼロであり、本年度も企画案が出なかったため、長崎大会では委員長自らが海外共同研究者を招聘し、国際交流シンポジウムを企画することとなった。この間、数回にわたるオンラインでの会議およびメール稟議を行った。

(2024.3.7.メール稟議：長崎大会での国際シンポジウムの可能性につきまして、2024/3/7 時点ではどなたからも提案などはなかったため、委員長の方で知り合いの海外研究者を日本に招聘し、国際シンポを企画することを提案し、委員全員の賛同を得る。)

2. 長崎大会での国際シンポジウムの実施

- ドイツのゲッティンゲン大学の教授で、多毛類の系統分類や生態の専門家の Maria Teresa Aguado Molina 博士に来日して頂き、シンポジウムでのご講演を行って頂いた。
- 無脊椎動物の多様性や進化に関するシンポジウムを企画し、関連する内容の研究をされている国内の研究者にも講演を依頼し承諾を得た。

【長崎大会での国際シンポジウム企画案】

シンポジウムタイトル

Evolution of animal body plans and life cycles: Novel adaptations towards new environments

開催日時：2024 年 9 月 12 日（木）18 時より（シンポジウム S5）

オーガナイザー：小口晃平（東海大・生物），三浦徹（東大・院理・臨海）

Kohei Oguchi (Tokai University), Toru Miura (The University of Tokyo)

シンポジウム主旨：

Tremendous diversity of body patterns is seen among metazoans, in which such morphologies have been acquired through evolutionary expansions into new environments. During the processes, animals have modified their life cycles, in association with the alteration of developmental programs forming their phenotypes. For example, metamorphosis in insects is a typical case, in which drastic phenotypic changes are carried out during postembryonic development. Such developmental alterations are suggested to enable animals to expand into new environments, but the knowledge is largely biased only to specific animal lineages (e.g., insects). In most of the animal phyla, especially marine invertebrates, almost nothing is known about the detailed patterns of phenotypic changes and the underlying developmental mechanisms. In this symposium, therefore, each speaker introduces the cases of evolutionary consequences seen in various animal lineages. In these cases, we can see developmental modifications that have probably acquired through evolutionary processes in relation to the expansion into new environments.

登壇者の氏名と講演順

(敬称略)

1. 乾直人（東大・院理・臨海）
2. 田中幹子（東工大・生命理工）
3. 小口晃平（東海大・生物）
4. Maria Teresa Aguado (Georg-August-Universität Göttingen, Germany)（海外招待講演者）

他の会場での多数のシンポジウムと並行しての開催であったため、聴衆の人数はそれほど多くは無かったが、どの講演に対しても聴衆から多数の活発な質疑が出て、動物進化に関わる活発な議論がなされた。特に招待講演者である Aguado 博士のご講演は大変教務深く、聴衆も興奮して聞き入っている様子であった。

中部支部活動報告（2024 年 8～12 月）

（2024 年 12 月 8 日報告）

1. 2024—2026 年度中部支部委員について

選挙による理事・支部代表委員の決定をもとに、庶務・会計担当を以下のように決めた。
また空席となった広報委員，愛知県委員ならびに長野県委員を前任者の推薦に基づき，以下のよう

- | | | |
|----------------------|-------|------------|
| ● 庶務担当 | 成瀬 清 | （基礎生物学研究所） |
| ● 会計担当 | 岩澤 淳 | （岐阜大学） |
| ● 広報委員（本部委員会・中部支部選出） | 岡田令子 | （静岡大学） |
| ● 寄附委員（本部委員会・中部支部選出） | 後藤寛貴 | （静岡大学） |
| ● 地区委員（愛知県） | 木村有希子 | （基礎生物学研究所） |
| ● 地区委員（長野県） | 松本創 | （信州大学） |
| ● 地区委員（山梨県） | 埴宗継 | （山梨大学） |

2. クラウドファンディング（プレパレートプロジェクト）

夏休みの課題研究を支援する目的で、中部支部の寄付委員を中心にプレパレートプロジェクトを実施した。13 件の寄付があり、計 74,057 円をご寄付いただいた。

3. 2024 年度中部支部大会について

・2024 年度中部支部大会は、尾内隆之会員（福井大学医学部解剖学分野）を大会長として、12 月 7，8 日に福井大学で開催された。1 日目に公開シンポジウム「脊椎動物の進化と起源～進化形態学と幹細胞生物学からの新展開～」と口頭発表、2 日目にポスター発表が行われた。発表された演題の内訳は以下の通り。学生（高専専攻科生・大学生・大学院生）の口頭発表が 18 題、ポスター発表が 6 題、一般の口頭発表が 2 題、ポスター発表が 1 題。また、高校生発表は口頭発表が 4 題、ポスター発表が 16 題。

4. 2024 年度中部支部委員会の開催

・支部大会 1 日目の夕刻に支部委員会を開催し、会計関係の報告と審議、次回支部大会の開催地の審議、および意見交換を行った。

ZDW 担当理事活動報告（7-12 月）

東城 幸治

（１）ZDW 委員会開催

2024 年 9 月 11 日、長崎大会に併せてハイブリッド形式での ZDW 委員会を開催した（長崎大学文教キャンパス 教養教育棟 2 階 A-23 教室）。主には、委員長の交代（広瀬→東城）に併せて、以下の内容での引き継ぎ、並びに課題を共有した。

ZooDiversity Web の維持更新

ZDW は ZM, ZA のアーカイブを含め、ひとまずは完成した状態にあるが、ZS, ZL については新たに出版される論文情報を更新が必要となる。また、不具合が確認された際には修正を順次行う必要がある。

- ・ ZS, ZL の論文についてデータベースを嶋田会員が作成
- ・ Dynax がデータを更新（同社とは年間契約）
- ・ Virtual Issue の編集（原稿を Dynax が ZDW にアップ）

- ・ ZDW のデータ修正、改善（作業内容を決めて Dynax に依頼）
- ・ ZDW からリンクしたサイト（What's ZDW?, How to Use (Video), ZDW
でできること）の維持管理
- ・ アクセス状況の確認

（２）ZDW 委員・嶋田大輔会員急逝

ZDW 委員会立ち上げ当初より、委員会の中心メンバーとして参画いただき、学会各誌の学名抽出作業等、ZDW に甚大なる貢献を果たしてこられた嶋田大輔会員が 2024 年 11 月 19 日に急逝された。

ご冥福をお祈りすると共に、嶋田会員が中心的に担当されてきたデータベース作成作業の引き継ぎについて、残された委員間で電子メールにて議論した。嶋田会員がかつて所属していた慶應義塾大学生物学教室の後任にあたる田中正敦会員に引き継いでいただけることとなった。

日本動物学会近畿支部活動報告

期間：2024 年 7 月 1 日～2024 年 12 月 31 日

作成者：小柳光正（日本動物学会近畿支部長）

1) 2024 年近畿支部秋季委員会

日時：2024 年 11 月 17 日（日）11:00～12:20

場所：奈良女子大学理学部 G 棟 G202 教室

出席者：理事 2 名、近畿支部委員 8 名

議題： 1. 2023 年春季支部委員会の議事録承認

2. 支部長報告・理事会報告

3. 2024 年秋の高校生研究発表会の概要説明

4. 会計報告

2023 年度の収支決算報告および会計監査報告

2024 年度の収支中間報告

5. 今後の活動予定について

2025 年春 公開講演会（神戸大学）

2025 年秋 高校生発表会（大阪公立大学）

2026 年春 公開講演会（担当候補・長浜バイオ大学）

2026 年秋 高校生発表会（担当候補・京都大学）

6. その他

2) 2024 年近畿支部 秋季高校生研究発表会（ポスター発表会）

日時：2024 年 11 月 17 日（日）13:30～16:30

場所：大奈良女子大学理学部 G 棟 G101 教室

発表ポスター数：23 件（13 校）

参加者：92 名

会長活動報告（2024 年 7 月～12 月）

報告者 会長 志賀向子
2024 年 12 月 12 日作成

- ・新理事、新監事にメール連絡し、支部長、各委員会委員長の引き継ぎを促した（9 月 10 日）。
- ・第 1 回理事会を実施し、会長、副会長を決定した（9 月 13 日）
- ・寺北明久前会長より、会長の職務引き継ぎをメールにて行なった（9 月 15 日）
- ・【生物科学連合】動物学会委員交代（会長 寺北→志賀、将来計画担当理事 田中→小柴、教育担当理事 谷口→和田）連絡をメールで送付した（9 月 19 日）
- ・BiOne からの Amendment to electronic licensing agreement の内容を確認し、UniBio Press に署名 OK の返事をした（9 月 25 日）
- ・【内藤記念財団】2025 年度新任選考委員候補者を推薦について意見を述べた（9 月 28 日）
- ・【生物科学連合】次期会長候補の推薦を理事会に募った（10 月 7 日）。
- ・成茂動物科学振興基金寄付者に学会の近況報告と会長交代の挨拶を行なった（10 月 7 日）。
- ・理事と監事に第 4 回理事会開催のお知らせ（召集）を送付した（10 月 31 日）
- ・【生物科学連合】第 30 回定例会議へ欠席のため委任状を提出した（12 月 11 日）
- ・本部役員による第 4 回理事会に向けた会合をズームにて開催した（11 月 20 日）
- ・本部役員にて WCMS2024（世界マリンステーション会議）への General Sponsor として 10 万円支出について検討し、動物学会ロゴ+Zoological Science 表紙を組み合わせたロゴ掲載として支出する方向を決め、理事会に諮ることとした（10 月）
- ・本部役員会にて国際生物学賞 2024 受賞記念講演会 後援について承認した（10 月 24 日）
- ・学術著作権協会事務局からの管理委託契約約款の改訂内容（AI）について本部役員でメール審議し、AI 利用も含め、著作権管理委託の申し込みを継続することとした（10 月 17-30 日）
- ・本部役員にて生物科学連合の雇い止め問題のアンケートを受けた提言（案）について議論した結果、賛成と回答した（11 月 21 日）
- ・茗原眞路子研究奨励助成の関連したご挨拶、OM 賞報告のメールを送信した（12 月 12 日）

2024 年度 7-12 月中国四国支部活動報告

中国四国支部 支部長 植木龍也

A. 支部の活動

(1) 2024 年 9 月の理事・支部長の交代を受け、新たに支部役員の選出を行った。支部選出委員についても確認した。庶務幹事と会計幹事は以下の通り委嘱した。

庶務：小林勇喜（広島大・院統合生命）

会計：有本飛鳥（広島大・瀬戸内 CN 国際共同研究センター）

(2) 2025 年 5 月に開催する予定の支部大会の準備状況について愛媛県委員の村上安則会員に確認した。

(3) 2023 年度の活動報告をとりまとめた。

B. 各県の活動

(1) 山口県

名称：山口大学理学部主催 「サイエンスワールド 2024～どうして？たのしいよ！ようこそ科学の世界へ～」(日本動物学会中国四国支部後援)

日時：2024 年 10 月 27 日（日）

場所：山口大学理学部 1 号館・総合研究棟・山口大学第 2 学生食堂「きらら」・山口大学生協 FAVO

内容：学生による科学体験企画を中心とした地域住民への科学への魅力発信（出展企画：225 件）

来場者：1116 名

広報委員会活動報告（2024 年 7 月～12 月）

報告者 広報担当理事 浮穴和義

2024 年 12 月 1 日作成

・学会ホームページ関連の更新・維持管理を行った。

1. 各委員の持ち回り（月当番）により、会員へのダイレクトメール情報に基づき、公募・研究助成情報・研究集会情報を学会ホームページに掲載した。
2. 会員へのダイレクトメール情報に基づき、月 1 回のメールマガジン配信を会員向けに行った。
3. 2024 年度日本動物学会賞、奨励賞、成茂動物科学振興賞、動物学教育賞、女性研究者奨励 OM 賞、茗原眞路子研究奨励助成の授賞理由・要旨を学会ホームページに掲載した。
4. 2023 年度 事業報告・決算書を学会ホームページに掲載した。
5. 学会ホームページの役員名簿，定款を更新した。
6. 2023 年度茗原眞路子研究奨励助成金報告書を 1 件掲載した。
7. 2024 年度川口賞報告書を 1 件掲載した。
8. 書評を 3 件掲載した。

広報委員会メンバー

委員長 浮穴 和義

委員

越川 滋行	北海道支部
松岡 有樹	東北支部
鈴木 郁夫	関東支部
岡田 令子	中部支部
中城 光琴	近畿支部
吉井 大志	中国四国支部
齋藤 大介	九州支部

日本動物学会九州支部活動報告

期間：2024 年 7 月 1 日～2024 年 12 月 31 日

作成者：岡田二郎（日本動物学会九州支部長）

1) 三学会合同佐賀例会

日時：2024 年 11 月 16 日（土）13:00-17:00

会場：佐賀大学農学部 1 号館 1 階第 3 講義室

参加者数： 名

演者（敬称略）と演題

1. 栗田桃萌（佐賀大学大学院農学研究科）

「限られた資源を利用するベニツチカメムシは雌雄で飛翔戦略が異なる」

2. 藤田大輔（佐賀大学農学部）

「イネのトビイロウンカ抵抗性遺伝子とその利用」

3. 徳田 誠（佐賀大学農学部）・矢野文士（鹿児島大学大学院連合農学研究科）

「塩生植物マツナ属の生存戦略とシチメンソウをめぐる昆虫群集」

2) 三学会合同宮崎例会

日時：2024 年 11 月 17 日（日）13 時 30 分-15 時 15 分

場所：宮崎大学農学部附属フィールド科学研究センター 2F 会議室

参加者数：10 名

話題提供(演者および演題)：

1. 宮崎大学農学部畜産草地科学科 助教 右京 里那 氏

「生後早期の社会的隔離がデグー *Octodon degus* の行動傾向に及ぼす影響」

2. 宮崎国際大学教育学部 准教授 満行 知花 氏

「私のこれまでの研究 一外来タンポポの進化と、さまざまな生物の MIG-seq 解析で見えてきたもの一」

3) 三学会合同鹿児島例会

日時：2024 年 12 月 7 日（土）午後 1 時 30 分より

場所：鹿児島大学理学部 220 号講義室

【高校生の研究発表 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分】

1. 「建物に巣をつくるジョロウグモの 1 年間の記録」

鹿児島県立錦江湾高等学校 サイエンス部クモ班

徳永 瑛,和田 千夏,末次 愛梨,山内 蓮,宮元 叶太,花井 龍之介,堀田 寛翔,坂口 太陽,馬場 美咲 (顧問:大迫 武治)

2. 「ムラサキツバメを取り巻く生き物たちの相互関係」

鹿児島県立錦江湾高等学校 SR シジミ班

東 怜矢,西 風斗,中養母 史也,濱田 一馬,山本 華帆,大隣 花菜,瀬尾 日菜子(顧問:小溝 克己)

3. 「九州のゲンジボタルの明滅周期に関する研究」

池田学園 池田高等学校 生物応答班

田口世南,早川葵,鎌田美舞菜 (顧問:黒木 和樹)

【一般講演 午後2時45分～午後3時30分】

「マメ科植物のもつ植物ヘモグロビンの特徴と役割について」

鹿児島大学理学部 福留 光孝 助教

4) 三学会合同福岡例会

日時：2024年12月14日(土) 13:00-

場所：九州大学伊都キャンパス 理学部講義棟(ビッグリーフ)202室(対面開催)

演題と演者：

1. 13:00-13:40 植物

「液-液相分離によるオーキシン輸送制御」

古谷 将彦(福岡大学理学部地球圏科学科)

2. 13:40-14:20 動物

「腸内細菌叢を人為的に再構築したミツバチの示す砂糖水応答」

末次 翔太(福岡大学理学部地球圏科学科)

3. 14:20-15:00 生態

「クモヒメバチ類のクモに特殊化した数々の適応形質」

高須賀 圭三(九州大学大学院理学研究院)

15:00-15:30 総合討論

5) 三学会合同長崎例会

日時：2024年12月14日(土) 予定

大会引継ぎ担当理事活動報告：2024 年 7 月-12 月までの活動報告

1. 第 94 回山形大会から第 95 回長崎大会に大会運営上の注意点および関係資料等を引継いだ。

以上

寄付担当理事活動報告（2024 年 7 月～12 月）

報告者 理事 山脇兆史

2024 年 11 月 27 日作成

2024 年 7 月-8 月

・昨年度に引き続き、7 月 5 日～8 月 25 日の期間、中部支部によるクラウドファンディング（プレパレート・プロジェクト 2024：募集件数 20 件、3,000 円/件）を実施し、13 件、74507 円のご寄付を頂戴した。

2024 年 10 月-11 月

・寄付委員会で電子メールにて協議し、今後の寄付活動の方向性について議論した。2025 年も中部支部によるクラウドファンディングを実施する方針を確認した。

2024 年 11 月

・11 月 27 日に寄付担当理事活動報告書を作成し、事務局に提出した。

以上

将来計画委員会活動報告（2024 年 7 月～12 月）

1. 2024 年 8 月 1 日にオンライン会議を実施し、キャリアパス小委員会の次期委員長として加藤委員が選出された。また、長崎大会で初の試みとなる若手交流会の準備状況について説明がなされた。
2. 第 95 回日本動物学会長崎大会において開催された第 24 回男女共同参画委員会懇談会ランチョン企画 「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究を無理なく続けるためのコツ～」にキャリアパス小委員会が協力した。グループディスカッションでは、キャリアパス関係のグループの司会を担当した。
3. 第 95 回日本動物学会長崎大会において若手交流会を開催した。活発な意見交換が行われ、参加した学生からは好意的な感想が寄せられた。
4. 2024 年 9 月 18 日にオンライン会議を実施し、引き継ぎと長崎大会の反省会を行った。次期大会でも若手交流会の開催と男女共同参画懇談会への協力を引き続き行うこととした。また、若手交流会については、学生がより参加しやすくなるように、開催時間と開催形式を変更し、ランチョン企画として実施することを計画している。

会計担当活動報告（2024 年 9 月～2024 年 12 月）

報告者 理事 佐倉 緑

2024 年 12 月 4 日作成

2024 年 9 月

- 査掛 前会計理事から会計担当の引き継ぎをおこなった。
- 将来計画委員会への予算措置について承認した。

2024 年 10 月

- 事務局長の給与手当について本部役員で決定し通知した。
- 学術著作権協会の「管理委託契約約款の改定」について本部役員で議論し、決定した。
- 2024 年度 7～9 月分の収支計算書を確認した。
- WCMS2024 へのスポンサー料金の支払いを承認した。

2024 年 11 月

- 事務局長の 2024 年度冬季賞与額について本部役員で決定し通知した。
- 国立大学教育研究評価の専門委員の推薦について本部役員で議論し、決定した。
- 本部役員会による理事会開催に向けたミーティング（オンライン）に出席した。

以上

(2024 年 2 月～12 月 庶務報告)

1. 長崎大会において、記者会見、総会、授賞式、受賞講演、本部企画シンポジウム（成茂シンポジウム）の進行、司会等を行った（前庶務担当理事）。
2. 前庶務担当理事より引継ぎを行なった。
3. その他、会長、副会長、会計、庶務、各委員会の職務を補佐した。

ZL の著作権について

志賀

9 月 11 日の理事会で UniBio Press 永井氏より、Zoological Letter の著作権に関して、CC BY に NC-ND（表示非営利-改変禁止）をつけることについての説明があった。永井氏の説明を受けて、12 月に開催される新しい理事の体制で審議することが提案され、継続審議事項となった。

参考：

CC BY

このライセンスにより、再利用者は、創作者に帰属表示がなされる限り、どのような媒体や形式であれ、素材を配布、リミックス、翻案、構築することができる。商用利用も可能です。

CC BY には以下の要素が含まれる。

BY: 創作者にクレジットを与えなければならない。

CC BY-NC-ND

このライセンスは、再利用者が、非商業的な目的に限り、かつ作成者に帰属表示がなされる限りにおいて、いかなる媒体またはフォーマットにおいても、改変されていない形式でのみ、素材を複製し、頒布することを可能にします。CC BY-NC-ND には以下の要素が含まれる

BY: 創作者にクレジットを与えなければならない。

NC: 作品の非営利目的での使用のみが許可される。

ND: 作品の派生物や翻案は許可されない。

理事報酬、監事報酬について

志賀

2024 年 9 月の総会で、定款第 28 条に基づき、以下の役員報酬及び退職規程が承認された。

第 28 条 理事及び監事に対して、社員総会において別に定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

公益社団法人 日本動物学会 役員報酬及び退職金規程

(目的)

1. 本規定は、公益社団法人日本動物学会の理事及び監事の報酬、退職金に関する事項を定款第 28 条に基づき定めることを目的とするものである。

(報酬・退職金について)

1. 公益社団法人日本動物学会 理事及び監事の役員の報酬は、それぞれ年額 2 万円の範囲内とし、退職金の支払はないものと定める。
2. 理事及び監事に対する報酬の額は、それぞれ年額 2 万円の範囲内で、理事の報酬については理事長が理事会の決議を得て、監事の報酬については社員総会の決議によりそれぞれ定めるものとする。
3. 学会活動上、生じた実費の弁償は報酬には含まれない。

(規程の改廃)

1. 本規程の改廃は、社員総会の決議を経て行うものとする。

附則

1. この規定は平成 24 年 7 月 1 日から施行する。
2. この規定は令和 6 年 10 月 1 日に改正、施行する。

これを受けて、理事報酬と監事報酬について決める必要がある。

→ 役員会方針 理事報酬、監事報酬 0 円 を提案する。